融合研究の主なコラボレーション活動

令和５年度　全領域合同研究交流会

1. 交流会開催について

昨年度は、計7回（前期：3回、後期：4回）の交流会を開催いたしました。コロナ禍から始まった「Zoom」を利用したオンライン形式での交流会も4年以上が経過し、「Zoom」の操作に慣れた教育院生が多くなってきたことから、問題なく進行することができました。また、前期第2回と後期第3回においては、一昨年度から再開した対面形式での交流会（ハイブリッド開催）を実施いたしました。対面ということもあり、発表者と質問者の交流の他、発表がない教育院生同士の交流も多く生まれていました。

交流会は例年通り、教育院生の発表を中心に、1回につき3名の口頭発表と、10名前後のポスター発表をしていただきました。また、ポスター発表では、学際科学フロンティア研究所の先生方にも毎回2名程度、ご発表いただきました。ありがとうございます。

コロナ禍が下火になりつつあり、日常が徐々に平常に戻り始めています。この流れに沿って、これまでに培ってきたオンライン形式を上手く活かしながら、対面形式の交流会も増やしていくことで、教育院生のさらなる交流や活発な議論が行われると思います。

2. 口頭発表について

例年に引き続き、1回の交流会につき質疑応答を含めた20分間の発表を3名の方にしていただきました。異分野の教育院生が多くを占めることから、発表者には、できる限り専門用語の使用を避けた分かりやすい表現を心がけていただきました。また、當真先生などの学際科学フロンティア研究所の先生方にはお忙しい中、発表スライドを添削していただきました。本当にありがとうございます。

発表者が、丁寧なスライド作りや分かりやすい表現を心がけた発表などの準備をしっかりとされていたことから、交流会の時間内に収まりきらない程の質疑応答が行われました。発表時間内に収まらなかった議題に関しては、交流会終了後にクラウドサービス「Slido」を利用したアフターフォローを実施しております。「Slido」にも交流会の度に複数の質問が寄せられるため、今後も「Slido」と併用した口頭発表を行うことで、異分野の教育院生間における盛んな情報共有がなされると思います。

3. ポスター発表について

オンラインでは、前年度に引き続き「Zoom」のブレイクアウト機能、および振り分け機能を利用して行いました。発表者は質疑応答を含めて20分間×3回を持ち時間とし、1回目の発表は振り分け機能を利用して聴衆をランダムに振り分け、2回目以降の発表は聴衆が部屋を自由に移動できるような仕組みで行いました。この方式によって、自分の聞きたい演題はもちろん、普段は触れることのない分野の研究内容を聞く機会が設けられたと考えております。

対面でのポスター発表も二度行いました。実際に会って議論をすることにより活発な議論が行われていたと感じました。ポスター発表を通じて発表者の研究を聴くだけでなく、参加者間の交流も行われており、対面で行う意義を感じました。しかしながら、人が固まり過ぎてしまうことがみられたのでポスター配置については一工夫必要かと思いました。

4. 現状の問題点と今後の交流会について

主に3つのことが運営委員の間で議論されました。一つ目は、対面開催のハイブリッド形式における事前準備についてです。これは運営委員の仕事となりますが、オンラインにて質問の音声が聞こえなかった等の意見をいただきました。その対策として、マイク配置の検討やテストなどの準備を事前に行った方が良いと思いました。

二つ目は、発表スライドの共有についてです。交流会に対する意見として「口頭発表者の発表スライドを共有してほしい」という意見を受けました。発表スライドをじっくり見ることができるようになってより理解を深められる一方、研究内容の流出やプレゼン力を磨くという観点で懐疑的な意見もあると話し合い、本件に関してはさらなる議論が必要だと考えました。

三つ目は、対面開催の開催頻度です。実際にオンラインと対面形式で交流会を行う中で、対面形式の方が質問が多く出るなど、より議論が盛り上がっているように感じました。どこからでも参加できるオンラインのメリットを踏まえつつ、対面開催の頻度を増やしても良いのではないかと感じました。

学際高等研究教育院 博士研究教育院生
令和5年度 後期交流会運営委員
物質・材料エネルギー領域 工学研究科　柴田 暁貴
生命・環境領域 薬学研究科　建石 悠貴